

作品の世界をとらえ、自分の考えをまとめよう

中心学習材「やまなし」資料「イーハトーブの夢」（光村図書6年）

授業者：石井 佳織

児童：6年1組35名

1 単元構想

(1) 児童の実態

- ・「大造じいさんとガン」の学習を通して表現の工夫や効果に着目して山場を捉えて読んだり、「帰り道」の学習を通して視点を変えて読むことで見えてくる人物像の違いに気付いたり、多様な読みをすることができるようになってきている。
- ・言葉の捉え方（解釈）や読書量、自分の考えを書いて表現する力（語彙力）に個人差はあるもの徐々に高まっている。

(2) 国語科の目標と系統性

5年「大造じいさんとガン」
表現の工夫や効果に着目して、人物像や山場を読み、物語の魅力をまとめる。

6年「帰り道」
登場人物の相互関係や心情などについて描写を基に捉える。

[知] 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。
(知(1)表現の技法 ク)

[思] 全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
(C(1)精査・解釈 エ)

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができる。
(C(1)考えの形成 オ)

[学] 表現や構成等に注目して作品の世界をとらえ、言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、解釈の多様性を認め合いながら自分の考えをまとめようとする。

6年「海の命」
文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、自分の考えを広げる。

(3) 教材の特性と主たる言語活動

①教材の特性

この教材は、擬声語や擬音語、造語、色彩、比喩、反復などが多様に使われており、作者独自の視点から独特の表現で描かれた作品である。そして、その抽象的で独自性のある文章から、読者が様々な解釈を自由に楽しむと同時に、くり返し読むことで直感的な読みから分析的・共感的な読みへと解釈を深めることができる。読者がどの言葉をどのように捉えるか、この世界から何を想像するか、作者の生き方や考え方とどのように結び付けるか等、内容面や表現面に着目しながら自分なりの考えをもって解釈し、作品を読むことができる教材であると考えられる。

②主たる言語活動「物語と作者の生き方や考え方を重ねて読み、作品の世界について考えたことをまとめる活動」

作品を読み深めて考えたこと（自分なりの作品の解釈）をまとめる活動を位置付ける。二枚の幻灯が何を象徴しているのか、作品全体が何を伝えようとしているのかについて、資料「イーハトーブの夢」から分かる宮沢賢治の生き方や考え方と関わらせながら自分の考えをまとめる。作品と作者の生き方や考え方とを関連付けて考えることで物語の解釈が変わってくることを実感し、読みを深めたり、他の宮沢賢治作品の読書への意欲付けにつなげたりすることができる。と考える。

(4) 本研究主題達成のための手立て

①よりよく獲得させたい国語科固有の資質・能力

作品の世界をとらえて自分の考えをまとめる力

②学びを推進する力（汎用的な資質・能力）

<情緒の力>

言葉から想像したり、想像したことを言葉にししたりする力

<論理的に思考する力>

情報を比較することで新たな意味に気付く力

③具体的方策

(第3・5時) ※本時

「やまなし」の世界にせまるために、表現の工夫（対比、比喩、情景、擬音語）や言葉に着目し、どんなことが想像できるかを問う。

(第3・5・6・7時)

・「やまなし」の世界にせまるために、二枚の幻灯を比較し、それぞれが何を象徴しているのかを問い、「〇〇の世界」とまとめる活動を設定する。 ※本時
・「やまなし」と自分が選んだ作品との相違点や共通点を問い、宮沢賢治作品の世界に対する自分の考えをまとめる場を設定する。

2 単元の学習計画

(1) 単元の評価規準

- [知] 比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。 ((1) 表現の技法 ク)
- [思] ①「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。
(C (1) 精査・解釈 エ)
- ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。
(C (1) 考えの形成 オ)
- [主] 物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりして、作品の世界をとらえることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って自分の考えをまとめようとしている。

(2) 指導と評価の計画 (8時間)

次	時	○学習活動	指導上の留意点 ＜発揮させる学びを推進する力＞	評価規準・評価方法等
一	1・2	<p>○学習計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初発の感想を交流し、追究していく課題を明らかにする。 ・個の課題とみんなで追究していく課題を精選する。 ・学習計画を立てる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 作品の世界をとらえ、自分の考えをまとめよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の教材を基に、童話にはメッセージ性があることを共有する。 ・初発の感想から、不思議に思ったところ、疑問に思ったところ、面白いと思ったところ、想像したことを交流し、追究していく課題を明らかにする。 <p style="text-align: center;">＜課題を設定する力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個の課題については、ロイロノートにまとめた上で、単元を通して徐々に解決していくことを伝える。 ・「幻灯」や「金雲母」「金剛石」等の分かりにくい言葉は実際の写真を見て確認する。 ・三次の作品の世界をとらえて自分の考えをまとめる活動を見通した上で、単元の課題を解決していくための学習計画を立てるようにする。 <p style="text-align: center;">＜見通す力＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮沢賢治の作品を紹介し、並行読書を促す。 	
	3	<p>○物語の全体像をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やまなし」の全体像を表現の工夫や効果に触れながら絵と言葉でまとめる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 物語の全体像をつかもう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・五月と十二月の世界の理解を深めるために、擬声語や擬音語、造語、色彩、情景、比喩等の表現の工夫を視点に、対比構造を絵と言葉でまとめるようにする。 ・場面設定や様子、会話、出来事の違いや変化をとらえながら、対比構造を明らかにする。 ・正体が分からない言葉については、結論を出さずに想像したことを交流することで留める。 ・個の課題について解決したことは、適宜ロイロノートに考えを書き足していくように促す。 <p style="text-align: center;">＜情緒の力＞＜論理的に思考する力＞</p>	<p>[知識・技能] ノート・発言 比喩や色彩、擬音語等の表現の工夫や、五月と十二月の対比構造に気付いているかを確認する。</p>
4	<p>○資料「イーハトーブの夢」を読む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料「イーハトーブの夢」を読み、宮沢賢治の生き方や考え方を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 賢治の生き方や考え方をとらえよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・5年生「やなせたかし」の学習で伝記を読んだことを想起しながら、業績とそこに隠された思いを視点に読むようにする。 ・繰り返し出てくる言葉やたくさんの童話を書こうと思った動機に着目し、宮沢賢治の理想や夢が何かを明らかにすることができるようになる。 <p style="text-align: center;">＜受容・共感の力＞</p>		

5 本時	○作品の世界をとらえる。 ・五月と十二月の幻灯を比較して読み、作品の世界にせまる。 二枚の幻灯を通して「やまなし」の世界をとらえよう。	・季節、時間、上から来たもの、情景等を手掛かりに二枚の幻灯が何を象徴しているのかを想像し、それぞれを「○○の世界」ととらえるようにする。 ・二枚の幻灯を相違点や共通点に着目して比較することで、直感的・感覚的だった読みを分析的・共感的にとらえるようにする。 〈情緒の力〉〈論理的に思考する力〉	[思考・判断・表現①] ノート・発言 五月と十二月の場面を比較して読み、それぞれが何を象徴しているのかを考えることで作品の世界をとらえているか確認する。
	○自分の考えをまとめ交流する。 ・「やまなし」についての自分の考え(解釈)をまとめ、交流する。 賢治が作品を通して伝えたかったことをまとめよう。 【例】 ・五月は「こわい所」という言葉から自然の厳しさ、十二月は「おいしそう」という言葉から自然の恵みを象徴していると思いました。賢治は厳しい農業の中にも楽しさや喜びを見つけることを理想としていたので、十二月という厳しい冬にも「やまなし」という喜びが落ちてきたことから、どんなに苦しい状況の時でも、喜びを見つけて未来に希望をもってほしいという願いを伝えたかったのではないかと思います。(188字)	・前時までに気付いた作品に対する自分なりの解釈を書く活動を設定する。 ・これまでの学習で理解したことと宮沢賢治の生き方や考え方を関連付けながら自分の考えを200字程度にまとめるようにする。 ・まとめた考えを基に友達と交流する場を設定する。 〈論理的に思考する力〉〈表現する力〉	[思考・判断・表現②] ノート・発言 「やまなし」の世界と宮沢賢治の生き方や考え方を関連付けて、自分の考えをまとめているかを確認する。
三 7	○自分が選んだ作品について、考えをまとめる。 ・並行読書していた本(「やまなし」以外の宮沢賢治の作品)について自分なりの考え(解釈)をまとめる。 自分が選んだ作品について考えたことをまとめよう。	・前時までの読み方を生かして自分が選んだ本について考えをまとめることで学びの自立化を図る。 ・「やまなし」と自分が選んだ本とを比較して共通点や相違点を考えることで、宮沢賢治作品のテーマ性を考えたり、宮沢賢治の生き方や考え方と関連付けたりしながら自分の考えをまとめることができるようにする。 〈論理的に思考する力〉〈表現する力〉	[主体的に学習に取り組む態度] ノート・PC・発言 課題に沿って表現や構成等に注目して作品の世界をとらえることに粘り強く取り組み、解釈の違いを認め合いながら自分の考えをまとめようとしているかを確認する。
	8	○互いの考えを交流し、自分の考えを広げる。 ・友達と互いの考えを交流する 互いの考えを交流し、自分の考えを広げよう。	・友達と考えを交流し、一人一人の解釈の違いに触れることで、表現の受け取り方の多様性や、自分の考えの広がりを実感することができるようにする。 ・単元を通じた学び方について自己評価をする。 〈表現する力〉〈メタ認知する力〉

3 本時の指導(5/8時)

(1) ねらい

五月と十二月の場面を比較して読み、それぞれが何を象徴しているのかを考えることで作品の世界をとらえることができる。

(2) 展開

学習活動	指導の手立て 〈発揮させる「学びを推進する力」〉(※評価)
1 これまでの学習を想起する。 ・「やまなし」の疑問点を想起する。	・初発の感想で子供から出ていた疑問の中から本時の課題につながる内容を確認し、二枚の幻灯が表すことについて考えていくことを共有する。
2 学習課題を確認する。 二枚の幻灯を通して「やまなし」の世界をとらえよう。	・二枚の幻灯を比較していくことを確認する。 ・比較する視点を確認する。(季節/時/情景/上から来たもの)

<p>3 二枚の幻灯から、それぞれがどんな意味を表しているのか考える。</p> <p>(1) 自分の考えを書く。 ・それぞれの幻灯を、根拠と理由を明らかにしながら「○○の世界」ととらえる。</p> <p>(2) 互いの考えを交流する。 ・何を手掛かりにしてそれぞれの世界をとらえたか、互いの考えを交流する。</p> <p>(3) 全体で考えを交流する。 ・互いの考えを交流することで、作品の世界を再構築する。</p> <p>4 学習のまとめをする。 ・二枚の幻灯を通して「やまなし」の世界をまとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><例> この作品は、二枚の幻灯を通して自然の厳しさと命の恵みを表したかったのだと思います。生き物と自然は支え合っていることから、命の大切さを伝えたかったのではないかと思います。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や時間、登場人物の様子、上から来たもの等を手掛かりに想像し、それぞれの幻灯を「○○の世界」と自分の言葉でまとめるようにする。 ・支援を要する児童には、まずは上から来たものの比較から、相違点を考えることができるようにする。 〈情緒の力〉〈論理的に思考する力〉 ・個々の考えがまとまったらグループの進行係が中心となって互いの考えとその理由を交流する。 ・それぞれの幻灯にどんな意味付けをしたか、互いの考えとその理由を交流することで視点を補完し合い、個々の考えを広げるようにする。 ・グループで話し合ったことを全体で交流することで、個々の理解を確かなものにする。 ・どのような理由と結び付けてそれぞれの世界をとらえたのか、考えとその理由を明らかにしながら考えを板書で可視化する。 ・五月の幻灯がある意味を問うことで、対比から見えてくる作品の世界を再構築する。 ・二つの場面を比較して読むことで象徴性や意味付けが生まれ、作品への解釈や物語の見え方が深まったことに気付くことができるようにする。 ・本時の学習で分かったこと、納得したことを自分の言葉でまとめるようにする。 <p>※五月と十二月の場面を比較して読み、それぞれが何を象徴しているのかを考えることで作品の世界をとらえることができる。(ノート・発言)</p>
<p>5 学習を振り返る。 ・二つの場面を比較することで作品への解釈が深まったことを確認し、学びの自覚化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・作品への解釈が深まったことを共有して、次時へつなげる。

(3) 評価

<p>評価規準 《評価方法》</p>	<p>五月と十二月の場面を比較して読み、それぞれが何を象徴しているのかを考えることで作品の世界をとらえている。《ノート・発言》</p>
<p>見取りの要素と表現例</p>	<p>○見取りの要素</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉から想像しながら二つの場面を比較し、作品のメッセージ性を考えている。 <p>【例①】 自然の厳しさと命の恵みについて表したかったのだと思います。生き物と自然は支え合っていることから、命の大切さを伝えたかったのではないかと思います。</p> <p>【例②】 自然の怖さと美しさを表したかったのだと思います。生き物は食べたり食べられたりするから、いいことも悪いこともあるということを伝えたかったと思います。</p>
<p>個に応じた支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・比較する視点を「上から来たもの」(かわせみとやまなし)に絞って考えるように促す。形や落ちて来た時の様子を比べて感じる印象を言語化できるように支援する。

